

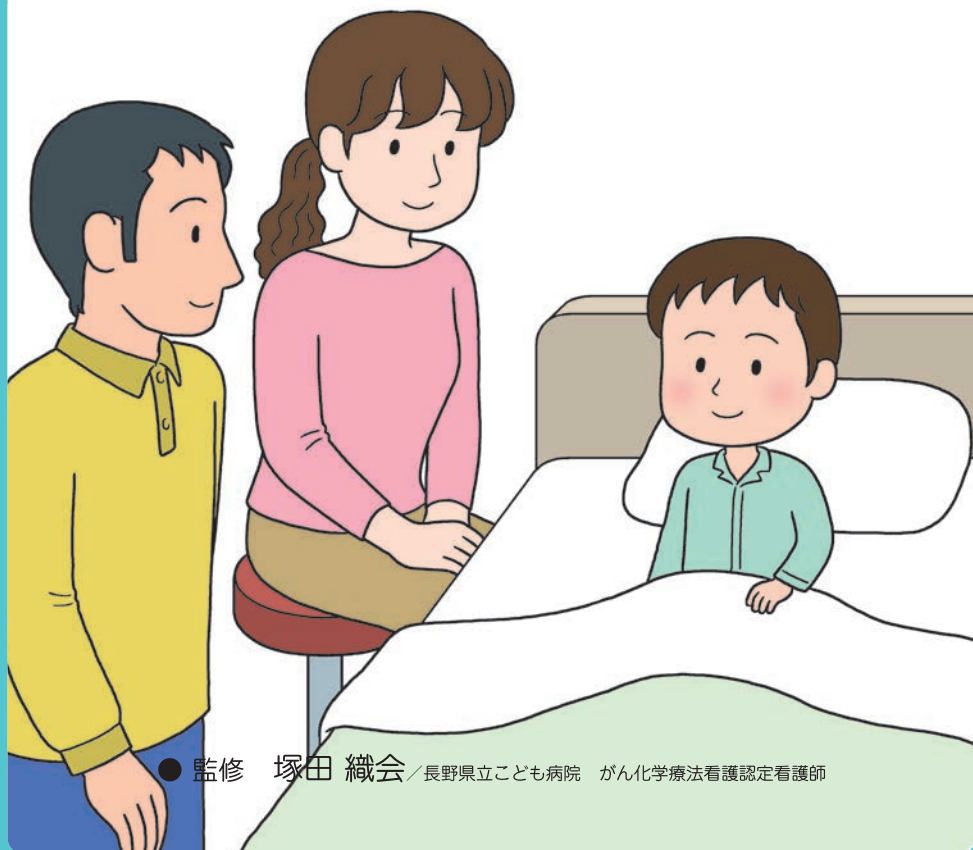
小児用

化学療法を

受けられる

患者さんにご家族へ

～ お薬の曝露予防について～



● 監修 塚田 織会 / 長野県立こども病院 がん化学療法看護認定看護師

ばくろ

曝露予防について

これから使うお薬は、病気を治してくれる一方で、お薬にさらされる(以下曝露といいます)ことで、患者さん自身やご家族の健康な体に影響を与えてしまう危険性があります。

治療後から48時間(お薬によっては最大1週間)は体の中で分解されたお薬が、患者さんの尿・便・嘔吐物、唾液や血液、汗などから排泄されます。これらやお薬に直接皮膚が接触することは曝露の危険性があります。安全に治療を進めるにあたり、正しい知識と適切な行動で曝露を予防をしていきましょう。

もくじ

- 1 曝露の経路 2
- 2 曝露の機会 3-4
- 3 曝露の予防方法について 5-10
- 4 お薬をのむときの注意点 11-12
- 5 お家に帰ってからの注意点 13
- 6 保育園・学校に登園・登校する際の注意点 14



1

曝露の経路

① 目に入る

(例) 尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗に
触れた手で目をこする、
お薬が目に入る



② 吸い込む

(例) 舞い散ったお薬を
吸い込む



③ 触る

(例) お薬に直接触れる
治療後の尿、便、嘔吐物、唾液、
血液、汗や体液に触れる



④ 口に入る

(例) 尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗、お薬に
触れた手でご飯を食べる
尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗、お薬に
触れた手で料理を作る





曝露の機会

尿便

おむつ交換



トイレの介助



嘔吐

嘔吐の対応時



血液

鼻出血の対応時



唾液

歯みがき
うがい



食事の介助



授乳



汗

抱っこや添い寝

こどもとの密着による
汗の皮膚接触



入浴



お薬

お薬の 内服や介助



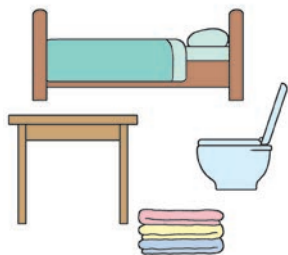
お薬で汚染された 環境表面との接触



お薬を充填した
輸液バックや
シリンジ・ルートから
薬剤がこぼれた時

環境

尿、便、嘔吐物、
唾液、血液、汗で
汚染された
環境表面との接触



尿、便、嘔吐物、
唾液、血液、汗で
汚染された衣類や
タオルの取り扱い時





3

曝露の予防方法

患者さん

治療中について

● 治療中は安静にしましょう

治療中に点滴のルートがゆるんだり、外れたりすると、お薬がこぼれて曝露をする可能性があります。

発見した時は、お薬に触らずにすぐにスタッフを呼んでください。

治療中に動き回ること、上記のリスクが高くなるため、トイレ以外はベッドから離れず安静にしましょう。



排泄について



● 排泄前後は便座を拭きましょう

尿や便が周囲に飛び散っている可能性があるため、排泄前後にトイレ用クリーナーで便座を拭き取りましょう。

● 排泄後は蓋を閉めてから水を流しましょう

トイレで排泄する時は周囲への排泄物の飛散を防ぐため、排尿後は蓋を閉めてから水を流してください。水量や水圧が不十分な場合は2回流してください。男の子も座って排尿をしてください。

● 十分に手を洗いましょう

尿器に排泄する場合、尿が飛び散って、手やうでに付着する可能性があります。排泄後は十分に手を洗って下さい。



汗について

● 大量に汗をかいた場合は適宜、着替えをしましょう





曝露の予防方法

ご家族

治療中

● 医療スタッフを呼びましょう

点滴のルートが外れてお薬がこぼれていても、
触らずにすぐに医療スタッフを呼んでください。



治療中～治療後48時間以内(お薬によって最大1週間)の尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗を取り扱うとき

● マスク・手袋(使い捨て)を着用しましょう

患者さんの尿・便、嘔吐物、血液、唾液に
対応する時はマスク・手袋を
着用してください。



● 使用した手袋はこまめに替えましょう

片づけに使用した手袋を着用したまま周囲に触れると、
手袋に付着した排泄物が周囲に広がっていきます。
周囲(ドアノブやベッド周りの物品)に
触れる時には手袋を替えたり
外したりしましょう。
使用した手袋は外側に
触れないようにして外し、
廃棄してください。



排泄について

● おむつ交換はこまめに行いましょう

オムツの場合は尿や便が皮膚に付着する時間が長くなるほど皮膚への刺激が強くなるため、2～3時間毎オムツ内を確認し、こまめにオムツ交換をしてください。尿や便が付着した皮膚は、石けんを使って洗浄し、保護クリームを塗布して肛門～陰部周辺を保護しましょう。



● 排泄の介助後はうでまでよく手を洗いましょう

尿が飛び散って、手やうでに付着する可能性があるため、石けんを使ってうでまでよく洗いましょう。





3

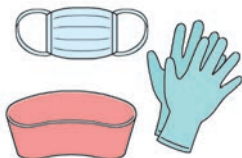
曝露の予防方法

ご家族

嘔吐について

- マスク・手袋を準備しておきましょう

突然嘔吐する可能性があるため、
ガーグルベースン、マスク、手袋を近くに
準備しておきましょう。



- 手に付着した場合はよく洗いましょう

血液について

- ビニール袋で密閉しましょう

血液が付着したペーパー等は
ビニール袋に入れて密封し、
廃棄方法は看護師の指示に従ってください。



唾液について

- 指しゃぶりはしないようにしましょう

指しゃぶりをする患者さんは
皮膚トラブルを防ぐため、
できるだけ指しゃぶりをしないよう
手袋やおしゃぶりの使用が望ましいです。
おしゃぶりをを使う場合、できれば1日1回～数回洗って、
次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。



大量の汗をかいたときについて

● 適宜、着替えをしましょう

患者さんが大量に汗をかく場合は適宜着替えをしてください。また、発汗が多い時にご家族が患者さんを抱っこした後は、腕まで十分な手洗いをし、ご家族の衣服が患者さんの汗で濡れてしまった場合は、「汚れてしまった衣類・タオルの洗濯の仕方」を参照し、洗ってください。

汚れてしまった衣類・タオルの洗濯の仕方

● 流水で洗い流した後、2度洗いをしましょう

ご家族をお薬の曝露から防ぐため、尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗などで汚れてしまった衣類・タオルは下記のように洗うことを推奨します。

尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗が付着した場合は、手袋・マスク・ゴーグルまたはメガネ・エプロンを着用し、周囲に飛び散らないよう流水で汚れを洗い流してから、以下のように2度洗いしてください。

※ このとき使用したエプロンは排泄物が飛び散っている可能性があるため、2度洗いしてください。

★ 1度目：患者さんの衣服のみを洗濯

(次亜塩素酸ナトリウム入り漂白剤入りを推奨します)

★ 2度目：通常の洗濯

(ご家族の衣服と一緒に洗濯してもよいです)

※ お薬が直接ついた服はできる限り廃棄することが望ましいです。



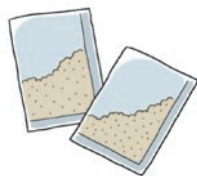


4 お薬をのむときの注意点

患者さんが自分で内服できる場合

- できるだけお薬に触れないように注意しましょう
- お薬が舞い散らないように注意しましょう

粉薬の場合は開封時に
お薬が舞い散り、吸入するだけでなく、
周囲に付着する可能性があるので注意しましょう。



- 十分に手を洗いましょう

内服後は手にお薬が付着している可能性があるため
十分に手を洗いましょう。



内服時にご家族が介助をする場合

- 手袋・マスク(・メガネ)を必ず着用しましょう

介助者は手袋・マスクを必ず着用しましょう。
また、粉薬は薬が舞い散った際、目に入ることを防ぐため、メガネを
必ず着用しましょう。水薬は、吐き出してしまうことが予測される
場合は、メガネを着用しましょう。

- メガネは流水で洗い流しましょう

内服時に使用したメガネは、流水で洗い流してください。

- 十分に手を洗いましょう

手袋を外したあとは十分に手を洗いましょう。

内服後の廃棄方法

● ビニール袋で密封しましょう

開封後の薬袋・手袋・マスク・
内服時に使用した物品は
ビニール袋に入れて密封してください。



● ご自宅では一般ゴミとして廃棄しましょう

入院中は看護師の指示に従ってください。
ご自宅では一般ゴミとして廃棄してください。

治療薬がこぼれた場合

● 手袋・マスク(・メガネ)を必ず着用しましょう

必ず手袋・マスク(・メガネ)を着用してください。
口周りに付着した場合は、濡れたコットンなど
でよく拭き取ってください。



周囲に飛び散った場合は、外側から内側に向かって拭き取り、お薬が広がらないようにしましょう。
衣類の場合は、「汚れてしまった衣類・タオルの洗濯の仕方(P.10)」と同様に洗濯してください。片付けに使用した物品はビニール袋に入れて密封し、廃棄してください。お薬に触れた時、対応後に手袋を外した時は十分に手を洗いましょう。



5 お家に帰ってからの 注意点

治療中、または治療後48時間から最大1週間以内に自宅に帰る場合は、下記のことにご気を付けましょう。

● 基本的には入院中の生活と同様に過ごしましょう

自宅に帰ってからも、男の子も座ってトイレをしましょう。
トイレ後はトイレ用クリーナー等で便座を拭きましょう。
おむつはビニール袋に入れて密閉し、一般ゴミに捨てましょう。

● 食器は共有しないようにしましょう

治療後1週間以内に外泊や一時退院をする時は、
患者さんの唾液が付いた箸やスプーンなどは
共有しないでください。

洗う時は、一度流水で患者さんの食器を
すすいしてから家族共用のスポンジで洗ってもよいです。



● 掃除はこまめにしましょう

患者さんの尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗は生活しているなかで、周囲に付着していることがあります。手袋・マスクをして、こまめに掃除をしましょう。また、尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗で汚れた場合は、手袋・マスクを着用し、よく拭きとりましょう。

例) 中性洗剤を使用し、外側から内側に向かって水でよく拭きとり、次に次亜塩素酸ナトリウムを布やペーパーにしみこませて同様の方法で拭きとり、乾燥させます。

使用した全てのはビニール袋に入れて密封し、一般ゴミで廃棄してください。最後に手をよく洗いましょう。



保育園・学校に 登園・登校する際の注意点

- ご家族以外の方の曝露を予防するためにも病院の医師やスタッフとご相談いただき、下記内容を保育士・教師の方々へご説明ください

□ 尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗の取り扱いについて

マスク・手袋を必ず着用し、
片づけに使用した物品(マスク・手袋・紙類など)は
ビニール袋に密封して廃棄してください。

□ 尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗が床などに付着した場合

マスク・手袋を着用し、よく拭きとってください。
掃除の例(P.13)を参考にしてください。

□ 尿、便、嘔吐物、唾液、血液、汗が衣類に付着した場合

ビニール袋に入れて
密封してご家族にお渡しください。



お問い合わせ先
カーディナルヘルス株式会社
Tel : 0120-917-205